

## 駒ヶ根市文化財

名称	切支丹の墓
種別	歴史資料
所在地	中沢中割・中曾倉(直指丹瑞の墓)
所有者	蔵澤寺(丹瑞の墓)
説明	<p>蔵澤寺境内の墓地に高さ 50.0cm の無縫塔がある。これが切支丹の罪で処刑された直指丹瑞(じきしたんずい)和尚の墓である。これを建てたのは、蔵澤寺 18 世祖禅和尚で昭和 4 年(1929)のことである。塔の裏の銘には「延宝二年十二月入院住職八年 当寺三世たるべき人 当寺より伊那常円寺へ他山 出生当村西大津渡」とある。当寺の 3 世と常円寺の 11 世を継ぐべき丹瑞が、何故に処刑されたうえ、2 箇寺とも住職世代から抹消されなければならなかったのか。そのいきさつを残された資料から紹介する。</p> <p>丹瑞の父永野四郎左衛門は武門の出身(前身は保科を名のる)であったが、寛永の初め頃、浪人となり小間物商などしながら中沢中曾倉の地に流れて来た。この頃彼は切支丹信者となっていたらしいが、この地に於て村の某女と親しくなり一子丹瑞を出生した。ところが彼が切支丹である事を告訴する者があり、寛永 20 年(1643)彼は極刑に処せられた。幼少にして父を失った丹瑞は蔵澤寺乾安音貞和尚との間に仏門に入る事を約束し、寛文 12 年(1672)に三州金竜寺にて得度した。(墓碑では延宝 2 年(1674)となっている。)蔵澤寺入山、その後常円寺に転住した。ところが、父の事件があった 50 数年後、元禄 10 年(1697)既に 60 歳になっていた丹瑞は、突如女犯の罪で処刑されて命を絶った。世が切支丹迫害の時期であった為、類族として丹瑞もまた処罰されたというのが地方史家の推測である。</p> <p>蔵澤寺から北東に位置する中曾倉神田久保の田の畔に「寿山良昌善男寿岳妙昌善女」と刻んだ、花崗岩自然石の粗末な墓碑がある。いつの時代に建てられたか不明であるが、これが丹瑞の父四郎左衛門とその妻の墓であると語りつがれている。</p>



直指丹瑞の墓



丹瑞両親の墓